

令和2年度 学校評価 自己評価書(1学期)

1 学校の教育課題

- (1) 確かな学力の定着を図り、自ら学ぶ児童を育成する。
- (2) 自然愛や人間愛をもち、礼儀正しく情操豊かな児童を育成する。
- (3) 勤労意欲と奉仕の精神をもち、自主的に活動する児童を育成する。
- (4) ねばり強くがんばりぬく児童を育成する。
- (5) 健康に留意し、体力と運動能力を高める運動好きな児童を育成する。

2 課題と解決策

【4：十分達成 3：おおむね達成 2：努力が必要 1：改善や修正が必要】

重点	努力点	次学期に向けての取組
■ 確かな学力の定着	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 平均点 2.6 → →	新型コロナウイルス感染予防のため、「対話的」のためのグループ活動を取り入れた授業づくりを行うことは難しかった。学級全体、または教師対子供での「対話」という意味で授業改善を考えていく必要がある。
	「問題解決的な学習」に基づいた授業設計 平均点 2.8 → →	学習を受ける基本的な姿勢を身に付けさせるとともに、引き続き問題解決的な授業を充実させていく必要がある。2学期も教材研究により力をいれながら取り組みたい。
	評価を生かした、個に応じた指導法の工夫 平均点 2.7 → →	引き続きNRT結果の分析を行い、分析結果を基に、朝活動や業間の時間を使って少しずつ個別指導を充実させていく必要がある。
	情報教育、環境教育、国際理解教育等の充実 平均点 2.7 → →	今後もデジタル教材の活用を図るとともに、情報教育、環境教育など、それぞれの教科とつながる部分を意識して指導をしていく必要がある。
	研修の充実と指導力の向上 平均点 2.9 → →	行事等の中止で、研修の機会も例年より少なくなった。今後も、計画的・自主的に、必要な情報をインターネット等を活用して習得するように心がけていく必要がある。
■ 心の教育の充実	実践に結び付く道徳教育の充実 平均点 2.8 → →	子供たちが自分と重ねて考えられるような発問を引き続き工夫していく必要がある。今後も、子供たちの実態や様子を見ながら、自分事として考えが深められるような発問計画を立てていく必要がある。
	一人一人の心に届く積極的な生徒指導の確立 平均点 2.7 → →	学校内での服装について、再度確認していく必要がある。また、「あ・は・は」運動を通して、引き続き挨拶の習慣を透させていく必要がある。
	人権同和教育の充実 平均点 2.8 → →	人権同和教育研修会に参加し、教師自身が子供たちの人権に配慮した言動を引き続き心がけていく必要がある。
	花育と清掃美化の継続・推進 平均点 2.9 → →	一人一鉢や学級園の花の世話をする子供に偏りが見られるので、2学期は学級全体で取り組んでいく必要がある。
■ 特別支援教育の充実	体育指導の充実 平均点 2.7 → →	子供たちの体力が落ちていることで、怪我等も増えているような気がする。ボールゲーム等に加え、固定施設や一校一運動である縄跳びで引き続き体力づくりを充実させていく必要がある。
	保健指導の充実 平均点 3.0 → →	新型コロナウイルス対策におけるマスク着用・検温等は、児童も職員もよく努力した。しかし、怪我が相次ぎ、遊び方のルールの見直しに加え、危険予知トレーニングと規則を尊重する指導を引き続き徹底していく必要がある。
	安全指導の充実 平均点 2.7 → →	随時、安全に関する情報提供や検討があり、意識を高めることができた。しかし、廊下を走る子供が少なくないので、引き続き指導していく必要がある。
	給食指導の充実 平均点 3.1 → →	一人一人の様子をしっかりと確認しながら、子供たちの箸の持ち方や偏食指導を引き続き行っていく必要がある。

重点	努力点	次学期に向けての取組
四 体力の向上と健康教育の充実	ア 特別支援教育校内委員会（就学指導を含む）の充実 平均点 2.9 → →	配慮の必要な子供たちに対して、ケース会議を開いたり、全校態勢での取組事項を確認したりすることができた。
	イ 教育的ニーズに応じた適切な支援 平均点 2.7 → →	
	ウ 教育的ニーズに応じた合理的配慮の適切な提供 平均点 2.8 → →	ノートのとおり方や人の話を最後まで集中して聞くことに関して指導が必要な子供が少なくなく、引き続き個に応じた指導を充実させていく必要がある。
	エ 特別支援教育に対する理解と認識の深化を図る研修の充実 平均点 3.0 → →	交流学級担任との連絡簿等により、連携を図ることができた。今後も連絡帳等を活用して、引き続き交流学級との連携強化を図っていく必要がある。
五 信頼される開かれた学校づくりの推進	ア 児童会活動、ボランティア活動の充実 平均点 2.6 → →	引き続き、朝の時間を利用し、高学年としての意識をもって、児童会活動やボランティア活動に取り組むことができるようにしていく必要がある。
	イ 家庭・地域との連携を大切に した共育の推進 平均点 2.7 → →	新型コロナウイルス感染予防のため、家庭との連携が難しいところもあるが、気になる児童への電話連絡を行った。引き続き、内容や方法を工夫し、家庭と連携が図れるようにしていく必要がある。
	ウ 学級PTAの充実 平均点 1.9 → →	コロナ感染予防のため、学級PTAの中止が続き、保護者と学級や児童の実態を共有することが難しかった。引き続き、気になったことは電話連絡や連絡帳、教育相談を活用していく必要がある。
	エ 関係機関との連携 平均点 2.7 → →	学校行事やPTA行事、地域行事等が未だ実施されない状況下ではあるが、保護者や地域住民との信頼関係の構築のため、内容や方法を工夫し連携が図れるようにしていきたい。